

群馬県立桐生清桜高等学校 学校評価一覧表 ① (令和5年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 選択科目を多く設定している教育課程に満足している生徒が80%以上いる。	・生徒の能力・適性をさらに伸ばすため、授業を基本として、さらに授業の改善に努める。 ・外国語(英語)・数学の授業は、少人数制・習熟度別で実施し、達成度の高い学習環境を実現する。 ・授業課程を見直し、生徒の進路実現のための実態に即したものに改善していく。	A	A	・令和4年度入学生から教育課程が新しくなり、1・2年生を対象とした履修指導が行われ、様々な問題点が見つかり、可能な範囲で見直しを行った。今後も若干の調整をしながら、教育課程を固めていきたい。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。	B	A	・現2年生から新しい教育課程になり、その生徒が3年次の科目選択を行った。進学重視型単位制高校として4年制大学進学を主たる進路先とする教育課程を編成しているものの、生徒の実態と多少のずれを感じる部分がある。より高い目標を持たせることを重視して、不断の見直しをしながら現教育課程を少なくとも今後2年度は続ける必要がある。
	2 生徒が充実感・満足感を得られる教育活動を行っていますか。	② 文化祭・体育祭・球技大会等の生徒会行事に主体的に取り組み楽しかったと自己評価した生徒が80%以上である。 ③ 桐生清桜高校の学校生活が好きだと感じている生徒が80%以上である。	・友人との協力、先輩・後輩の交流を通して、自分の居場所を獲得し、他人との協調性を体得する。 ・あらゆる学校活動を通して、生徒の学校生活に充実感を持たせる。	A	A	・一学期には、球技大会を開催することができた。7月という暑い時期で熱中症等が心配されたが、概ね無事終わり、生徒も充実した2日間を過ごすことができた。2学期には初めての体育祭が行われる予定である。充実した行事になるよう生徒会をサポートしていく。	A	B	・今年度は、10月に清桜高校として初めての体育祭を行うことができた。また、12月の予備会は、感染状況を踏まえ3年生は体育館で、1・2年はオンラインでの実施であった。低い外部評価となったのは、感染状況が12月から悪化し、1年生の企業大学見学が中止になってしまったことが影響していると考えられる。引き続き感染状況を考慮した行事の計画と実施が必要となる。
	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業が分かりやすい」と思っている生徒が80%以上いる。 ⑤ 「協働学習」等の学び合いに意欲的に取り組んだと自己評価した生徒が80%以上である。	・進路希望調査や学習量調査のデータを集計、分析し、それらを学力向上対策に生かしていく。 ・授業アンケートを実施し、その結果を踏まえて、授業の工夫・改善を行っていく。 ・協働学習やICTを活用した授業を積極的に取り入れ、生徒の主体的・対話的な深い学習を促す。 ・就職から四年制大学進学希望まで多様な目標を持つ生徒に対し適切に対応する。	A	A	・模試などのデータの分析や面談等を踏まえて生徒の実態を把握し、授業を構想する。 ・授業アンケートの結果を各授業担当の授業改善につなげる。	A	A	・肯定的な外部評価が79.7%とわずかに80%に届かなかった。伝達しにくい内容の伝達に当たっては、より分かりやすく伝える工夫を今後も続けていく必要がある。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が80%以上いる。	・生徒の学力向上を目指すと共に、生徒各人の進路目標に応じた課外授業等を設定する。 ・家庭学習時間の確保を目標に、計画的に学習課題を設定する。 ・定期考査前を中心に、生徒の日常の学習習慣・学習時間を知ること、それぞれの生徒に応じた学習へのアドバイスを行う。	A	A	・協働学習は構成メンバーによってその効果に差が出るのが懸念されるので、班編制に工夫を加えた協働学習を構想する。 ・協働学習する時間とそうでない時間をうまく組み合わせる。	A	A	・一斉授業では生徒のモチベーションにあまり左右されなかったが、協働的な学習では、生徒のモチベーションを高めた状態で授業ができるかが重要な因子であると感じる。また、生徒間のコミュニケーション能力も問われる。この2つの課題を解決することで充実した「協働学習」を目指したい。
	5 生徒状況を把握し、組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ きめ細かな生徒観察を通して生徒に関する情報交換を月に4回以上実施している。 ⑧ 組織的な服装・頭髪・挨拶指導を月に1度(1週間程度)行う。	・学年と生徒指導部が密接に連携し情報交換を行い、生徒理解に努め安全・安心な学校生活を送らせる。 ・月に1度、「学校生活改善週間」を定め、「身だしなみ」「チャイムスタート」の徹底を図る。	B	A	・年次会議は毎週定期的に行われており、その中で情報交換は丁寧に行われている。教育相談係との連携も密に行われており、今後も継続していく。 ・二者面談の充実により、生徒とのコミュニケーションの機会を増やす。	A	C	・年次会議・生徒指導部会議・教育相談会議・運営委員会などの定例会に加え、不定期なものを含めた生徒情報の交換・共有の機会が確保されている。 ・外部アンケートでは、「本校が安全で安心して学べる環境だと思いますか」という質問に対し、思わない(3.2%) 全く思わない(0.5%)であった。3年生では進路未決定への不安、1・2年生では学校生活や家庭生活全般にわたり不安を抱える者が一定数存在することも想定されるので、二者面談などの機会を捉えてアプローチを続けたい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 生徒指導部より10回以上発行し、学校の指導方針を生徒や保護者に伝える。 ⑩ 「部活動の活性化」の目標の下、部活動に加入している生徒が60%以上である。 ⑪ 欠席率・遅刻率・早退率の合計がやむを得ない理由を除き在籍生徒の3%以内である。	・保護者に学校の指導方針や指導方法に理解をいただき、共通した意識を持つ。 ・自ら部活動に加入し、学校生活を充実させようという意識を高める。 ・健全な生活習慣の確立と時間厳守の態度や精神を身に付けさせる。	A	A	・携帯電話連絡網システム(オクルンジャー)を利用して、定期的に生徒指導部からたよりを配信している。2学期もこのペースを崩さないように配布していきたい。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。	B	B	・生徒指導部よりは定期的に発行されているが、外部評価で「わからない」と答える保護者が28%以上いる。携帯電話連絡網システム(オクルンジャー)等を使って配布しているが、タイトルが「冬季休業中の生活心得」などであり、生徒指導部よりという認識が薄いのではないかと考える。質問の仕方についても変更が必要がある。
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑫ いじめの発生防止に努め、いじめの解消に推移していないいじめが0件である。	・いじめに関するアンケートを毎月実施し未然防止・早期発見に努め、発見された場合は状況を正確に把握し、解消に努める。	A	A	・現在69.6%の生徒が部活動に加入している。しかし、もっと多くの生徒が部活動に加入し、充実した学校生活を送ることが望ましいと考える。各部のさらなる活動の充実を促す。 ・合計が2.89%(欠席:1.71 遅刻:0.84 早退:0.34)であり、昨年度と比べ若干向上した。 ・健康だよりや生徒指導だより、またはHR時の指導などを通して基本的な生活習慣を確立できるように促す。	A	A	・加入率は70%を超えることができている。非認知能力の育成の観点からも更なる活動の充実を図りつつ、各種大会等の結果として表れてくることに期待したい。 ・合計が4.5%(欠席2.8 遅刻:1.2 早退:0.5)であった。昨年より若干良くなっているが、数字としてはまだまだ多い状態である。引き続き基本的な生活習慣の確立に努めるよう様々な機会を捉えて伝えていく。
	8 計画的な指導を行っていますか。	⑬ 各年次を対象にした進路関係行事を年5回以上実施している。 ⑭ キャリア教育・進路情報に関して最新の資料提供に努め、70%以上の生徒が自発的に進路活動を実施できるように促す。	・生徒の実態や学年段階を踏まえ、内容を精選し、事前・事後指導に努める。 ・進路情報・キャリア教育の2点を柱とし、自分自身、また人生を考える一助とする。	A	A	・課外活動・模擬試験等、生徒の学力向上を目指す行事と、生徒に直接的に考えさせる行事のバランスを考え、引き続き指導していく。 ・進路情報の提供は計画的になされている。さらに自発的に進路活動に取り組めるよう引き続き指導していく。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。	A	A	・1年を通して計画的に進路行事を実施している。生徒の幅広い進路希望に対して対応できるよう今後も検討を続けたい。 ・情報の提供など概ね適切なタイミングできている。今後も継続して行っていきたい。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、また保護者はそれを理解しその実現に向けて取り組んでいますか。	⑮ キャリア教育・進路関係行事に主体的に取り組んでいると自己評価している生徒の割合が80%以上である。 ⑯ 生徒の将来の進路希望について、具体的に理解している保護者の割合が、80%以上である。 ⑰ 進学・就職情報、就学資金等の情報提供が十分になされ、理解している保護者の割合が、80%以上である。	・外部機関とも連携し、あらゆる機会を通してヒト・モノ・コトとの出会いの場を創出し、進路意識の高揚を図る。 ・三者面談の内容を充実させる。HPや連絡網等を通じて、進路情報の発信に努め、家庭での進路対話の機会とする。 ・家庭の状況や学年の実態に即した進路指導及び情報提供に努める。また、保護者向けの進路行事も準備する。	B	A	・3年は4月に外部機関の進路ガイダンスを実施。1・2年についても生徒が主体的に進路を考える場を提供したい。 ※外部評価では、分からないと答えた部分を除いて評価している。	C	A	・1年生はインフルエンザの流行により、上級学校見学や企業見学を行うことができなかった。2年生では大学の出前授業を実施している。外の世界に触れる機会を数多く持つよう取り組んでいきたい。 ・7月に全生徒を対象とした三者面談、3年生については、12月に進路が決まっていない生徒を対象に三者面談を行っている。担任は、保護者と話す機会もあり、保護者の理解度もある程度把握しているが、それ以外の職員は知らない場合も多い。こうした現状に配慮した質問に変更するよう検討する。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱ 学校行事や部活動、生徒会活動で地域の方々や交流する機会を10回以上設ける。 ⑲ 携帯電話連絡網システム(オクルンジャー)の加入率が、全保護者の95%以上である。 ⑳ PTA総会等の保護者が参加する学校行事に出席した保護者が80%以上である。 ㉑ 学校のホームページを月2回以上更新している。	・地域の行事等に積極的に参加する。 ・諸連絡を含め、タイムリーに発信する。 ・保護者のニーズを把握し、適切な情報を発信していく。 ・最新の情報を掲載し、本校を理解してもらう。	B	A	・和太鼓部や探究の授業で地域の方々や交流を持っている。 ・8月現在99.3%の加入率となっており、保護者宛のオンラインでの唯一の連絡手段である。月間行事予定など定期的な連絡のほか、緊急時の連絡に使用している。更なる有効活用について検討を続けていきたい。 ・今年度は、進路説明会や三者面談に加えて、授業見学を一学期に行うことができた。平日開催であったが約1/3の保護者の来校があった。 ※分からないと答えた28.3%を除いて評価している。	A	A	・2年生は、総合的な探究の時間の授業で地域企業と数回にわたって交流をしている。1年生についても、地域の企業や名所旧跡を訪問するなど積極的に地域の方々や交流している。 ・加入率については95%を超えている。以前に比べ、多くの職員が携帯電話連絡網システム(オクルンジャー)を利用して、資料の配布や連絡を行うようになった。保護者からは、使いづらいといった声もあるが、Webページとは違い、特定の人に送ることができる連絡手段として引き続き利用していきたい。 ・2年生については、保護者向けの進路説明会と修学旅行説明会を行っている。1年生についてはオンラインで行ったが、参加者は少なかった。その他の学校行事への保護者の参加には制限を加えているので、評価が低いと思われる。清桜高校としてどうあるべきか今後の検討が必要である。
	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉒ Chromebookを活用していると自己評価している生徒の割合が80%以上である。 ㉓ ICTを活用した授業を年3回以上実施している。	・年度初めにChromebookのログイン方法について指導し、根気強く対応する。 ・ICTが効果的だと思われる授業場面を考え実施する。	A	A	・中学生・保護者・一般向けの情報発信を行っているが、保護者向けの情報発信が足りないと感じている。新型コロナウイルスにより、学校の状況が分かりにくくなっているため、オンラインでの情報提供を増やしていきたい。 ※分からないと答えた保護者が28.1%いたが、あえて含んだ数値で評価している。	B	C	・第1回目の学校評価アンケートを踏まえ、学校のホームページの更新をより組織的かつタイムリーに行うことにした。現在古いデータを更新しているところであるので、今後の改善を計画的に進めたい。 ※分からないと答えた保護者が28%程度いたが、あえて含んだ数値で評価している。
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ スタディサプリやGoogleClassroomを利用して、課題や配付物の配信等を行っているとして自己評価している職員割合が80%以上である。	・年度初めにChromebookのログイン方法について指導し、根気強く対応する。 ・ICTが効果的だと思われる授業場面を考え実施する。 ・スタディサプリやGoogleClassroomの利用法についての案内を行う。	A	A	・Chromebookの活用法について、教科内での検討や成果を挙げた好事例の共有が進めば、教師によるより一層の活用が実現し、ひいては生徒の利用も促進すると考える。 ・ICTを利用する教師は確実に増えてきている。更に利用が進むには、先生方の意識の高まりだけでなく、より使いやすい情報インフラの整備も必要だと思われる。	A	A	・Chromebookの配布から3年が経過した。生徒も職員も当たり前のよう使う場面が増えてきている。今後BYODに移行していくことになるが、想定される問題に対応していきたい。 ・ICTを活用する職員が増えた。お互いの授業を公開したり、先進的な活用好事例を共有したりすることで、更なる授業力の向上に繋げたい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉒ Chromebookを活用していると自己評価している生徒の割合が80%以上である。 ㉓ ICTを活用した授業を年3回以上実施している。	・年度初めにChromebookのログイン方法について指導し、根気強く対応する。 ・ICTが効果的だと思われる授業場面を考え実施する。	A	A	・Chromebookの活用法について、教科内での検討や成果を挙げた好事例の共有が進めば、教師によるより一層の活用が実現し、ひいては生徒の利用も促進すると考える。	A	A	・Chromebookの配布から3年が経過した。生徒も職員も当たり前のよう使う場面が増えてきている。今後BYODに移行していくことになるが、想定される問題に対応していきたい。
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ スタディサプリやGoogleClassroomを利用して、課題や配付物の配信等を行っているとして自己評価している職員割合が80%以上である。	・スタディサプリやGoogleClassroomの利用法についての案内を行う。	A	A	・スタディサプリやGoogleClassroomの利用はかなり進んできていると思うが、スタディサプリの活用が少ないと感じる。一部の教員にとどまらず、多くが利用するよう呼びかけたい。	B	A	・GoogleClassroomについては、アンケートや連絡など様々な場面で利用されている。内部評価が低めだが、肯定的な意見が昨年度は69%程度、今年度は76%程度と上昇傾向にあるので、この取組を継続したい。